

第32回

# 長浜企業 景況調査

## 報告書

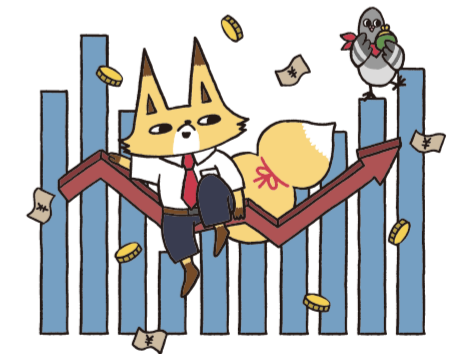


**実績** 2024年 4月～6月

**見通し** 2024年 7月～9月

### 今期のトピックス

「2024年問題」について



### アプリのご紹介

スマホやタブレットでご利用いただける、長浜商工会議所の専用アプリケーション“長浜商工会議所 News”をリリースいたしました！  
発信した情報を「いち早く」「多くの方に」見ていただくことを目的に作成したアプリです。  
補助金やセミナー・イベント情報等々、情報に更新があるとアプリに通知が届きます☆(要設定なので、ぜひプッシュ通知はONにしてください！)  
健康診断や検定試験などのご案内もございますので、代表や担当の方だけでなく、社員皆さままでご利用いただけたらと思います(^^)

■Android・タブレットをご利用の方→  
Google Play ストアからダウンロード



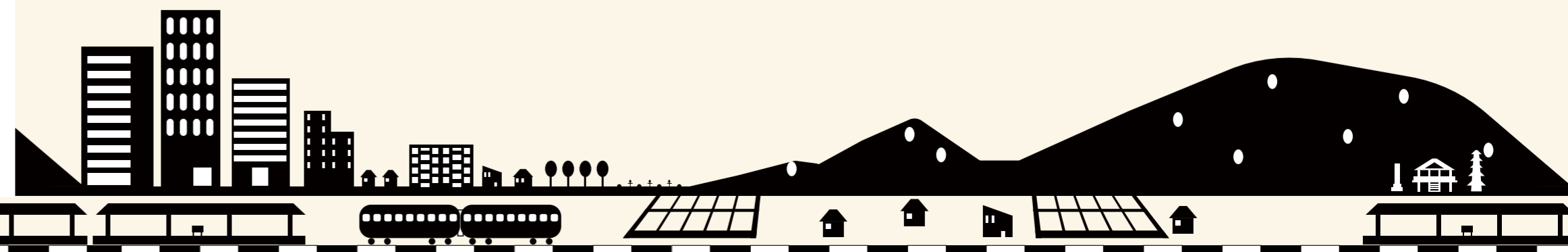
■Iphone・ipad をご利用の方→  
App Store からダウンロード



「長浜商工会議所」とご検索ください(^^)!



**長浜商工会議所**  
NAGAHAMA Chamber of Commerce and Industry



# コンテンツ

## 01 調査概要

05 業種ごとの動向  
(卸売業・小売業・サービス業・建設業・製造業)

## 02 今期のトピックス

07 設備投資の有無

## 03 全体の景況感 (総括)

08 調査項目別 DI の推移

## 04 調査項目別 DI 値

10 その他業種別自由意見

## 04 業種別業況 DI の推移 (長期トレンド)

# 調査概要

## 長浜企業景況調査について

### ① 調査対象期間・調査時点

調査対象期間: 令和6年4月~6月  
調査時点: 令和6年7月1日

### ② 調査方法

長浜商工会議所会員企業220社へのFAX方式・メール方式による調査

### ③ 調査対象企業数

220社 (内訳は右表通り)

### ④ 報告者

中小企業診断士 川副 郷一郎

	調査対象企業数		有効回答企業数		回収率
	企業数	構成比	企業数	構成比	
卸売業	24	10.9%	15	11.4%	62.5%
小売業	40	18.2%	27	20.5%	67.5%
サービス業	70	31.8%	41	31.1%	58.6%
建設業	32	14.5%	20	15.2%	62.5%
製造業	54	24.5%	29	22.0%	53.7%
合計	220	100.0%	132	100.0%	60.0%

## 長浜企業景況調査の見方について

### DI 指数について

- ① 調査結果を示す指数としてDI指数を採用しています。
- ② 調査項目のうち、「業況(自社)」「売上高」「採算(経常利益)」「資金繰り」「従業員」「販売価格」「仕入価格」「業界動向(同業他社)」「長・短期資金借入難易度」「受注動向(建設業)」「在庫量(製造業)」のDI指数は前年同期と比較しています。
- ③ 「取引の問合せ」と「採算の水準」のDI指数は前年同期比較ではなく調査対象期間の水準を評価した数値です。

### DI 指数の見方について

- ① DI指数がプラスであれば好調の企業数が不調の企業数を上回っていることを意味し、プラスの値が大きいほど「好調」の企業割合が多く「景気がよい」と判断されます。
- ② このDI指数を前期、今期、来期とグラフで示すと、その傾向を読み取ることができます。
- ③ 業況DIは経営者の景況感を反映しています。主観的な要素もはありますが、売上高や収益動向で判断される傾向が強いです。
- ④ 資金繰りDIは概ね景気循環と連動していますが、政策の影響が景気の低迷期で認められています。
- ⑤ 小売業は売上高DI、卸売業は資金繰りDI、サービス業は従業員DIの推移が注目する指数です。
- ⑥ 建設業は季節による影響が業況DIに認められています。これは公共工事との連動のため1~3月期は総じて低調な傾向となります。

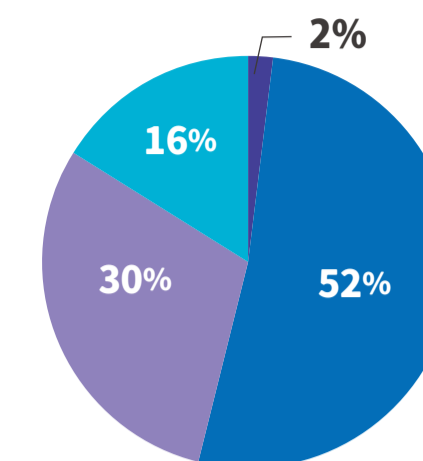
### 設備投資の見方について

- ① 好景気では「生産力増加」「合理化省力化」投資が増加し、景気の後退期では「設備更新」投資の割合が増える傾向にあります。

# 今期のトピックス

## 1. 貴社の経営への2024年問題の影響について (今後の影響も含む)

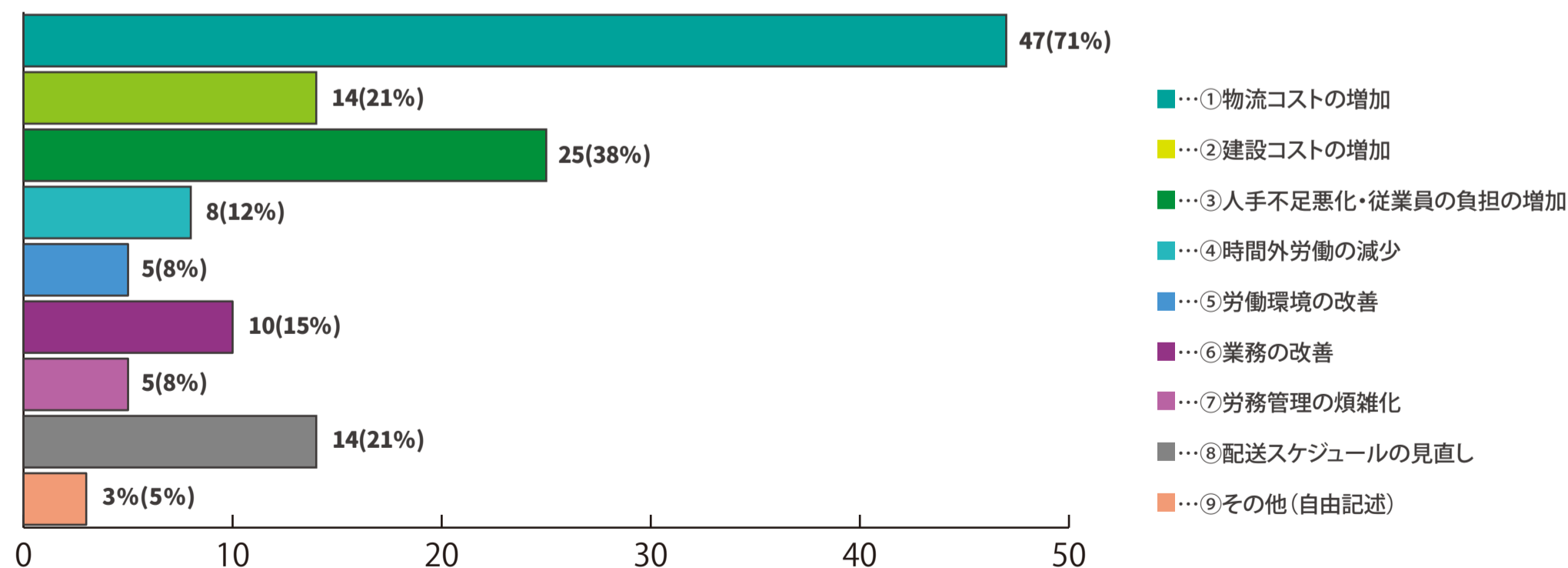
	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
①プラスの影響がある	1	0	0	1	0	2
②マイナスの影響がある	12	16	11	12	13	64
③影響はない	2	5	18	4	8	37
④わからない	1	5	8	1	5	20
合計	16	26	37	18	26	123



■…①プラスの影響がある ■…②マイナスの影響がある ■…③影響はない ■…④わからない

## 2. 【1で①または②と回答された方】具体的な影響や対応に当てはまるもの (有効回答社数 66社)

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
①物流コストの増加	9	13	8	4	13	47
②建設コストの増加	2	0	2	9	1	14
③人手不足悪化・従業員の負担の増加	4	1	7	10	3	25
④時間外労働の減少	0	0	2	5	1	8
⑤労働環境の改善	0	1	0	4	0	5
⑥業務の改善	0	2	2	5	1	10
⑦労務管理の煩雑化	0	1	0	2	2	5
⑧配送スケジュールの見直し	3	5	1	1	4	14
⑨その他	1	0	1	1	0	3



※各項目の()内の割合は、回答社数に占める割合(複数回答のため合計は100%にならない)

「2024年問題」に対して、マイナスの影響を見込む企業は約5割となった。具体的な影響として、「物流コストの増加」や「人手不足の悪化・従業員の負担の増加」などがあげられ、多くの企業が負担増を危惧している。企業からは従業員の実収入の目減りが懸念され、働く意欲が削がれ兼ねない(建設業)との意見もあった。今後は増加した物流コストの転嫁や業務の省人化、リードタイムの長期化を見込んだスケジュールの見直し等の対策が求められる。

# 全体の景況感（総括）

## 「業況DIは4期振りに上昇」

全体の業況DIは、前期（2024年1-3月期）の▲8.8から今期は1.5と4期ぶりに上昇しました。売上高DI（2.3）が前期比9.6ポイント上昇、採算（経常利益）DI（▲11.4）が同2.5ポイント上昇し5期振りにマイナス幅が縮小したためと考えられます。来期（2024年7-9月期）の業況DIはもちあい（0.0）で今期より1.5ポイント低下する見通しとなっています。

全体の従業員DIは▲26.5で、2期連続で不足感がやや強まりました。販売価格DIは39.5で前期比2.3ポイント、仕入れ価格DIは71.3で同4.1ポイント、それぞれ低下しました。

今期はコロナが5類に移行した1年前（2023年4-6月期）との比較になります。そこで業況DIについて移行前後の各1年間を比較すると、移行前が上昇トレンドだったのに対し移行後は低下トレンドで推移しました。約3年に亘ったコロナ期における生活様式、消費動向、原材料費や物流費・人件費等の上昇による企業収益構造、働き方等の変化に加え、中国経済等の海外動向など経営を取り巻く環境変化への対応に苦心している姿がうかがわれます。

## 業況DIは卸売業・製造業・サービス業で上昇、小売業・建設業で低下

業種別では、業況DI、売上高DI、採算DIはともに、卸売業、製造業、サービス業で上昇、小売業および建設業で低下しました。従業員DIは建設業、製造業、卸売業で不足感が強まり、サービス業、小売業で不足感が弱まりました。

卸売業は、売上高DI（6.7）が前期比43.5ポイント、採算DI（▲13.3）は同23.5ポイントともに上昇し、業況DI（▲6.7）は同35.4ポイント上昇しました。小売業は、業況DI（0.0）が同7.7ポイント、売上高DI（▲7.4）が同26.6ポイントともに低下しました。販売価格DI（59.3）は同11.3ポイント上昇しましたが、採算DI（▲14.8）は同26.3ポイント低下しました。サービス業は、売上高DI（14.6）、採算DI（0.0）ともに上昇し、業況DI（12.2）は同9.6ポイント上昇し9期連続プラス圏で推移しました。建設業は、業況DI（▲15.0）、売上高DI（▲25.0）ともに低下しました。仕入れ価格DI（75.0）は同19.4ポイント低下しましたが、採算DI（▲40.0）は同12.2ポイント低下しました。製造業は、売上高DI（10.3）が同21.7ポイント、採算DI（▲3.4）が同16.6ポイント上昇し、業況DI（3.4）は同20.5ポイント上昇し6期ぶりにプラス圏となりました。

来期の業況DIは、建設業、小売業で上昇、卸売業、サービス業、製造業で低下する見通しとなりました。

## 設備投資計画やや弱まる

本調査と同時に実施した「設備投資の計画状況」調査によると、設備投資計画が「ある」と答えた企業の割合は前期よりやや減少し26.7%でした。最も高かったのは製造業の48.3%で、約半数の企業が設備投資を計画しています。次いで建設業（35.0%）、小売業（22.2%）、卸売業（20.0%）、サービス業（12.5%）の順でした。

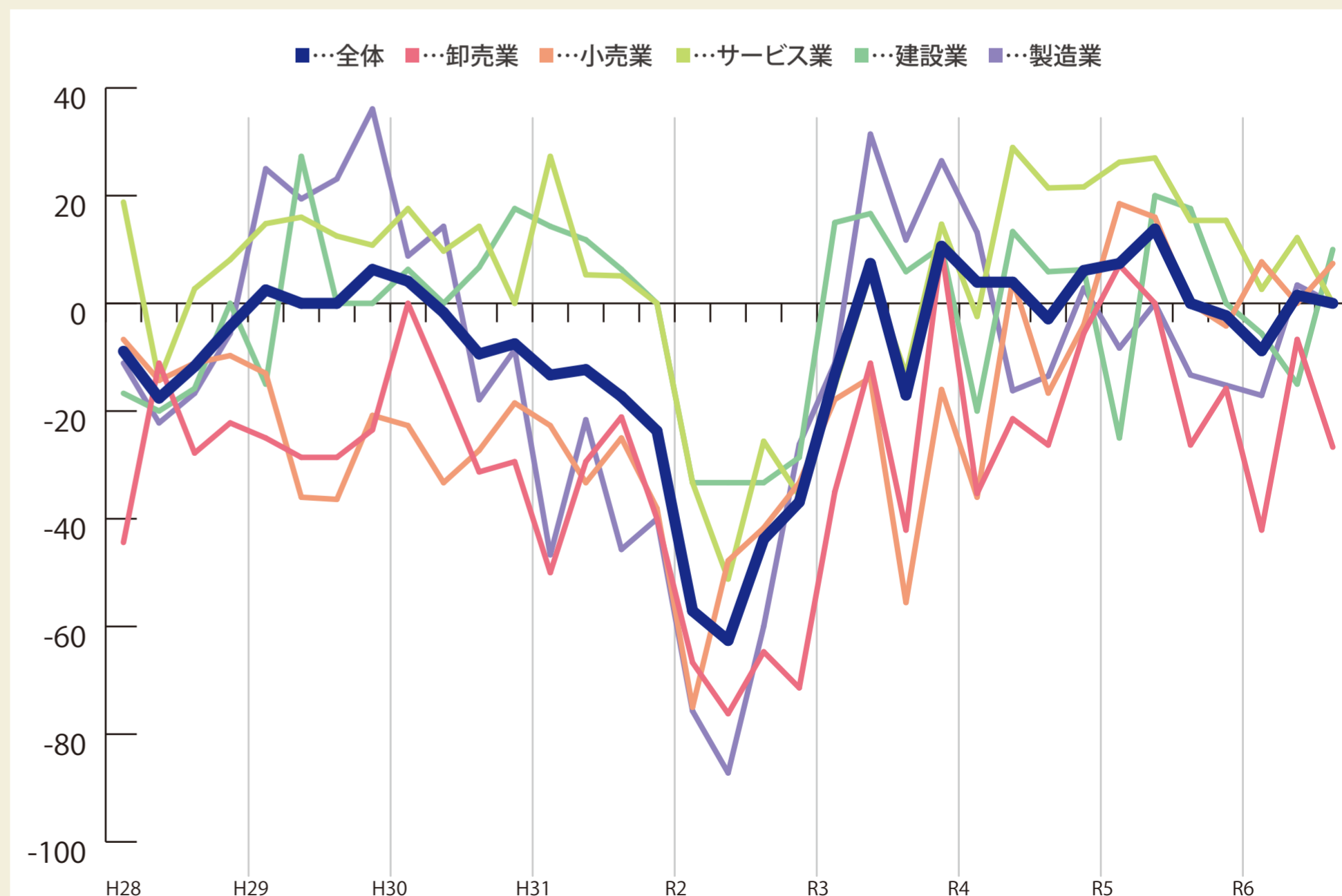
投資内容では、景気回復期に強まる「生産力増加」投資と「合理化・省力化」投資の合計が全体で45.7%と前期より9.1ポイント低下しました。その中で製造業と小売業は50%以上で、特に製造業は64.3%と全業種で最も高い割合でした。

（中小企業診断士 川副 郷一郎）

# 調査項目別 DI 値

	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
業況	13.8	0.0	▲ 2.3	▲ 8.8	1.5	0.0
売上高	16.0	6.1	9.2	▲ 7.3	2.3	4.6
採算(経常利益)	▲ 5.3	▲ 10.0	▲ 10.7	▲ 13.9	▲ 11.4	▲ 8.5
資金繰り	0.8	▲ 2.3	▲ 10.8	▲ 6.6	▲ 5.3	▲ 2.3
従業員	▲ 28.8	▲ 23.7	▲ 21.5	▲ 24.4	▲ 26.5	▲ 25.4
取引の問い合わせ	▲ 0.8	▲ 10.1	▲ 5.4	▲ 11.9	▲ 8.5	▲ 10.1
採算の水準	12.5	5.3	18.2	8.1	15.9	16.9
販売価格	43.1	51.9	38.5	41.8	39.5	41.3
仕入れ価格	74.2	71.9	73.4	75.4	71.3	72.4
業界動向	▲ 8.1	▲ 20.2	▲ 20.3	▲ 19.8	▲ 20.6	▲ 19.4
借入難易度(長期)	0.8	▲ 3.2	▲ 1.6	6.8	1.6	▲ 1.7
借入難易度(短期)	1.6	4.1	4.0	10.1	6.3	3.3
受注動向(建設業)	5.3	6.3	▲ 12.5	▲ 5.9	▲ 15.8	▲ 15.8
在庫量(製造業)	▲ 3.8	19.2	0.0	7.4	▲ 8.3	8.3

# 業種別業況 DI の推移（長期トレンド）



※R6.7-9のDIは見通し

# 業種ごとの動向（卸売業・小売業・サービス業・建設業）

**業況の動き アイコンの説明**

- 前期の業況DI値から +1以上
- 前期の業況DI値から +1未満 ▲1超
- 前期の業況DI値から ▲1以下

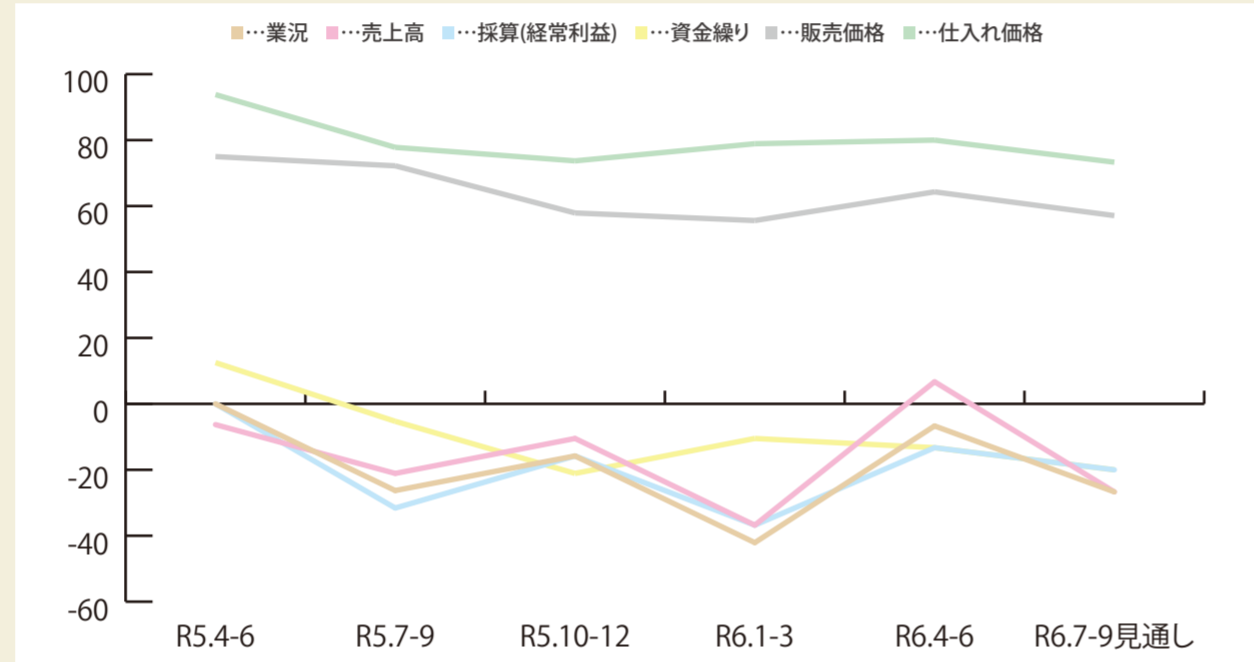
※全国の業況DI... 「中小企業景況調査」 (中小企業庁)結果より

## 卸売業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国	長浜
業況 DI ▲15.1→▲12.4	業況 DI ▲42.1→▲6.7

	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
業況	0.0	▲26.3	▲15.8	▲42.1	▲6.7	▲26.7
売上高	▲6.3	▲21.1	▲10.5	▲36.8	6.7	▲26.7
採算(経常利益)	0.0	▲31.6	▲15.8	▲36.8	▲13.3	▲20.0
資金繰り	12.5	▲5.3	▲21.1	▲10.5	▲13.3	▲20.0
販売価格	75.0	72.2	57.9	55.6	64.3	57.1
仕入れ価格	93.8	77.8	73.7	78.9	80.0	73.3



### 事業者の声

**好転**

- 展示会をして大きく売上げが上昇した。

**悪化**

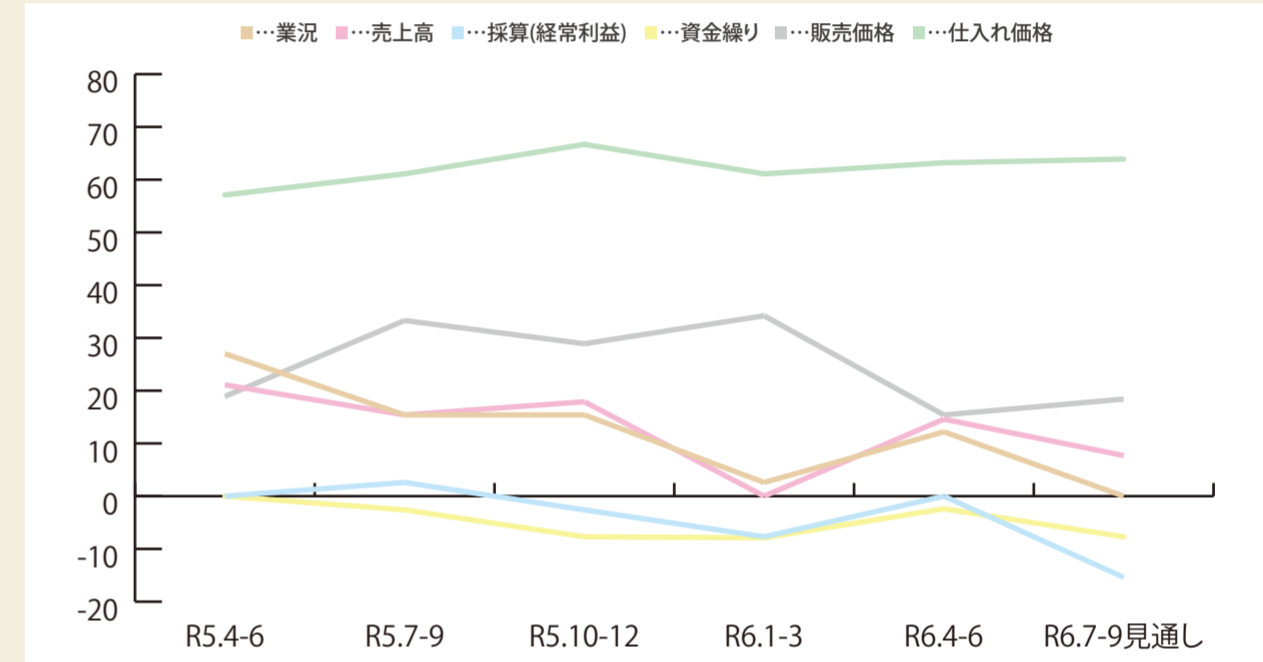
- 全体的に消費が低調。
- 仕入価格、物流コストが上がり続けている。
- 建築の材料高騰。

## サービス業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国	長浜
業況 DI ▲11.7→▲8.8	業況 DI 2.6→12.2

	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
業況	27.0	15.4	15.4	2.6	12.2	0.0
売上高	21.1	15.4	17.9	0.0	14.6	7.7
採算(経常利益)	0.0	2.6	▲2.6	▲7.7	0.0	▲15.4
資金繰り	0.0	▲2.6	▲7.7	▲7.9	▲2.4	▲7.7
販売価格	18.9	33.3	28.9	34.2	15.4	18.4
仕入れ価格	57.1	61.1	66.7	61.1	63.2	63.9



### 事業者の声

**好転**

- 以前より値上げに理解を得やすい。
- DXやAIなどに注目が集まり、堅調な状況です。
- コロナを意識した移動制限や心理的なものがうすれてきて、消費行動も活発になりつつあるように感じる。

**悪化**

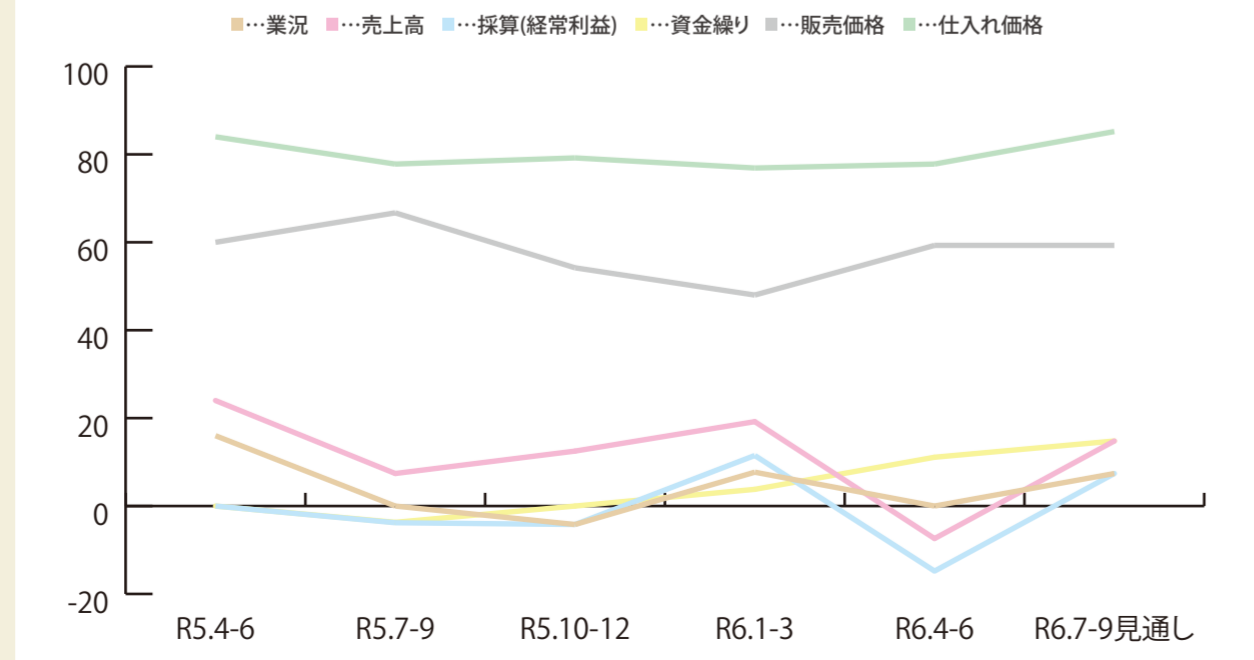
- 似たような他業者が増え、問い合わせが減った。
- EC事業は仕入れ値と運送費の高騰により販売価格が高くなり、売上に良くない影響が出ている。
- 価格転嫁が困難。

## 小売業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国	長浜
業況 DI ▲28.4→▲25.0	業況 DI 7.7→0.0

	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
業況	16.0	0.0	▲4.2	7.7	0.0	7.4
売上高	24.0	7.4	12.5	19.2	▲7.4	14.8
採算(経常利益)	0.0	▲3.8	▲4.2	11.5	▲14.8	7.4
資金繰り	0.0	▲3.7	0.0	3.8	11.1	14.8
販売価格	60.0	66.7	54.2	48.0	59.3	59.3
仕入れ価格	84.0	77.8	79.2	76.9	77.8	85.2



### 事業者の声

**好転**

- コロナ後の需要が落ち着いたことで、メーカーの欠品状況が若干改善された。

**悪化**

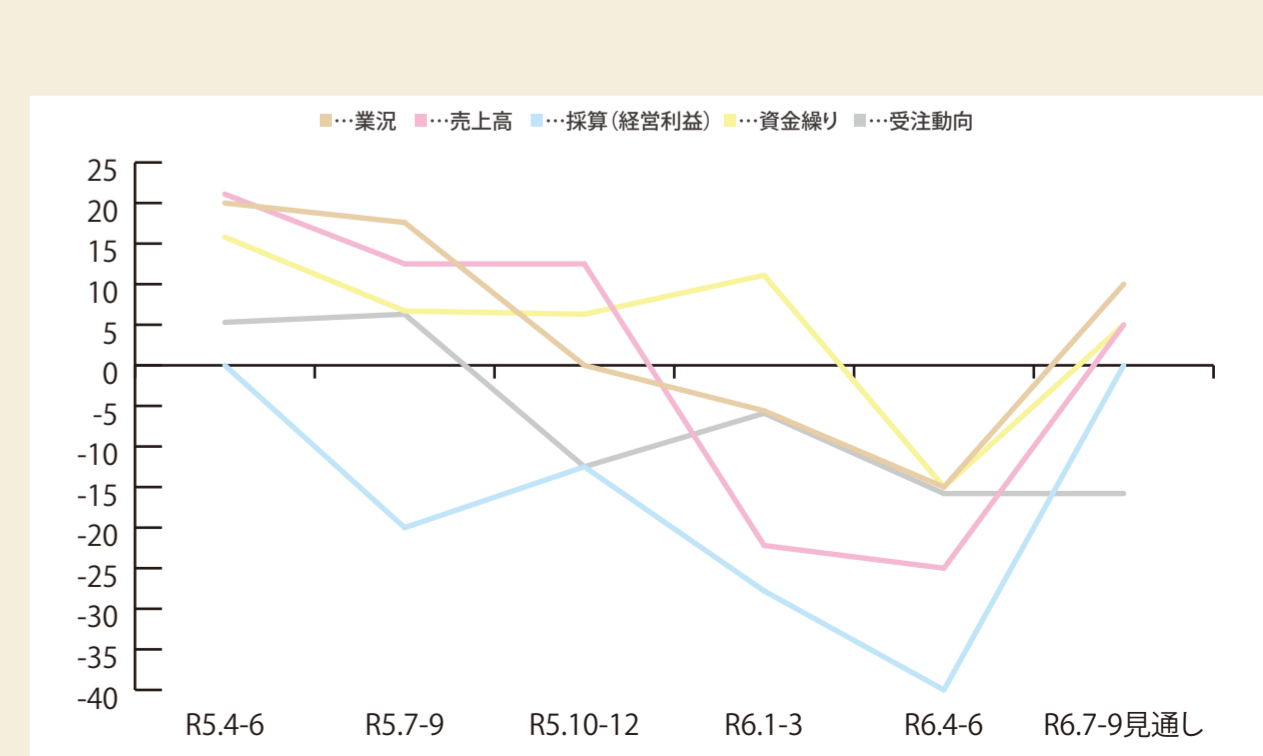
- 消費動向が低調。
- 労働力不足、原価高騰に未だ歯止めかからず。
- 仕入での部材価格が上がっている。

## 建設業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国	長浜
業況 DI ▲14.5→▲11.8	業況 DI ▲5.6→▲15.0

	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
業況	20.0	17.6	0.0	▲5.6	▲15.0	10.0
売上高	21.1	12.5	12.5	▲22.2	▲25.0	5.0
採算(経常利益)	0.0	▲20.0	▲12.5	▲27.8	▲40.0	0.0
資金繰り	15.8	6.7	6.3	11.1	▲15.0	5.0
受注動向	5.3	6.3	▲12.5	▲5.9	▲15.8	▲15.8



### 事業者の声

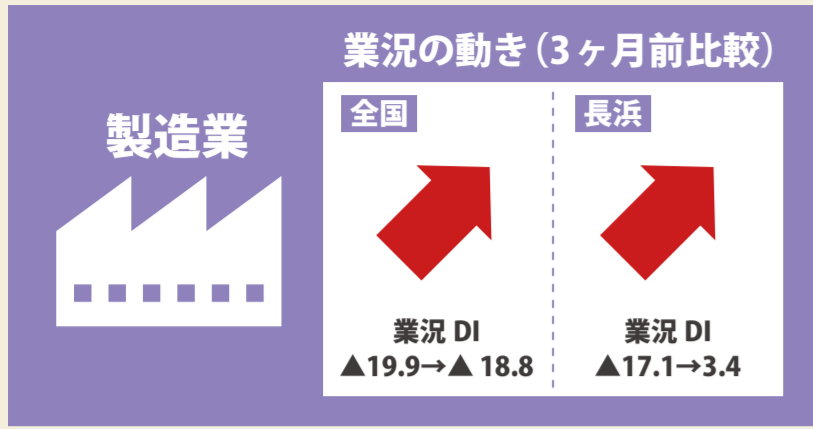
**好転**

- 企業の設備投資の話が増えてきている。
- 物価上昇にともなう販価の値上げは徐々に進んでいる。

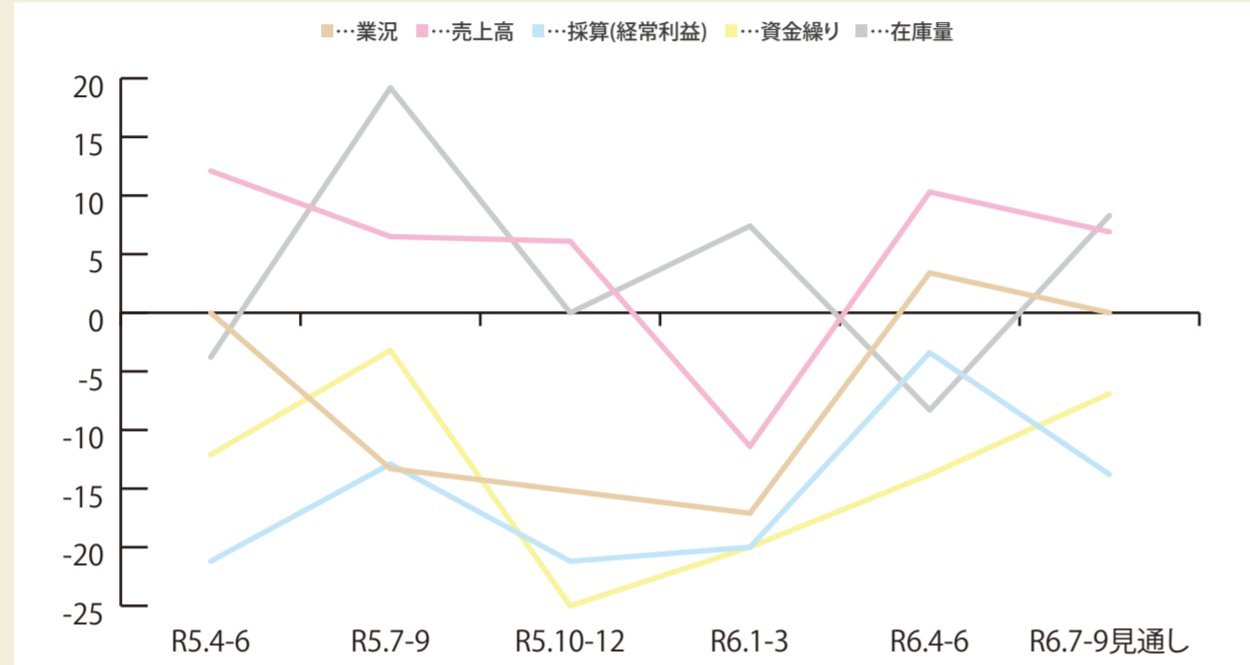
**悪化**

- 仕入価格の高騰。
- 人手不足は深刻化している。
- 従業員雇用が難しい。採用単価も上昇している。

# 業種ごとの動向（製造業）



	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
業況	0.0	▲13.3	▲15.2	▲17.1	3.4	0.0
売上高	12.1	6.5	6.1	▲11.4	10.3	6.9
採算(経常利益)	▲21.2	▲12.9	▲21.2	▲20.0	▲3.4	▲13.8
資金繰り	▲12.1	▲3.2	▲25.0	▲20.0	▲13.8	▲6.9
在庫量	▲3.8	19.2	0.0	7.4	▲8.3	8.3



## 事業者の声

### 好転

- 稼働率、売上共に良くなった。付加価値の高い商品への受注が増えた。
- 受注増加・船舶用環境部品の受注増。

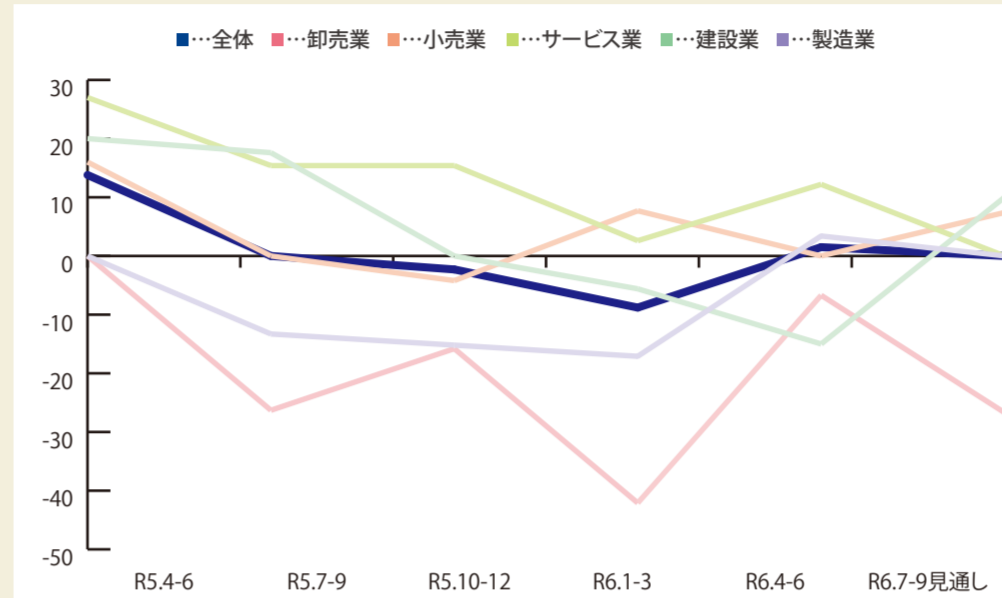
### 悪化

- 半導体、自動車関係の落ち込みが大きい。
- 材料価格の高騰 昇給等による人件費の増加。
- 世界的な建機業界不振の影響。当面回復の見込みが立たない状況。

# 調査項目別 DI の推移①

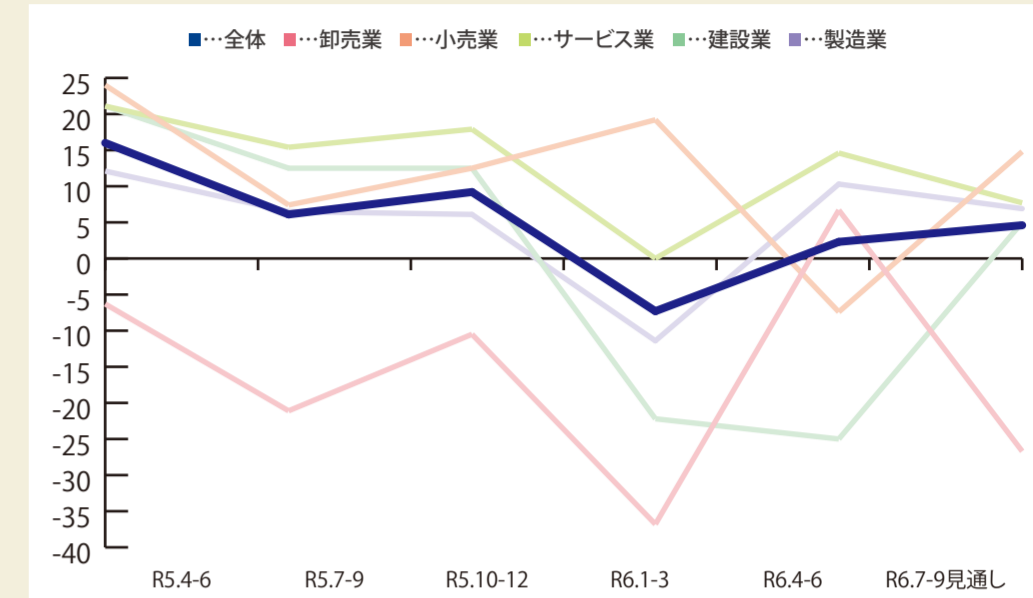
## 業況（好転-悪化）

	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
全体	13.8	0.0	▲2.3	▲8.8	1.5	0.0
卸売業	0.0	▲26.3	▲15.8	▲42.1	▲6.7	▲26.7
小売業	16.0	0.0	▲4.2	7.7	0.0	7.4
サービス業	27.0	15.4	15.4	2.6	12.2	0.0
建設業	20.0	17.6	0.0	▲5.6	▲15.0	10.0
製造業	0.0	▲13.3	▲15.2	▲17.1	3.4	0.0



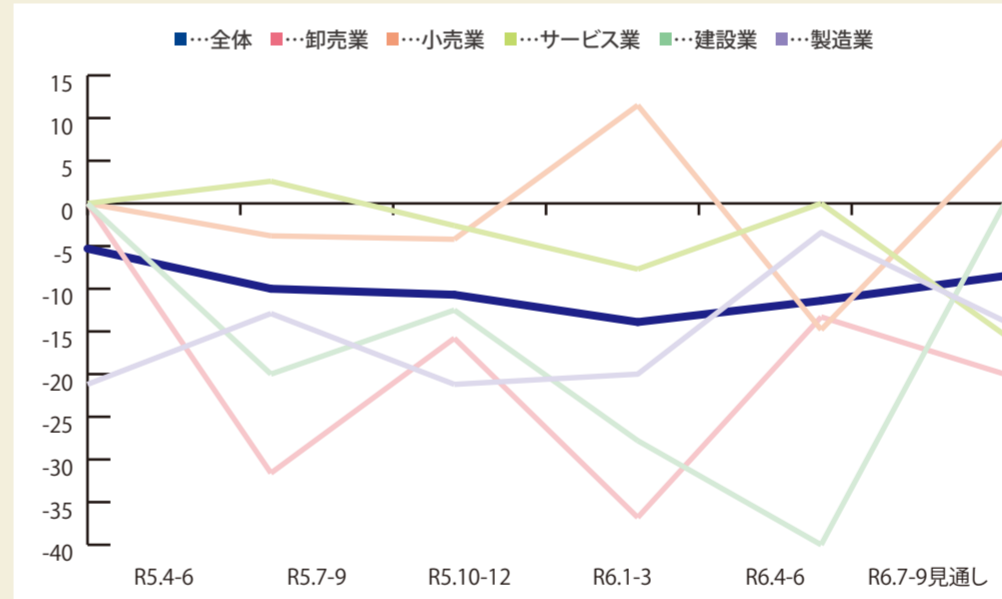
## 売上高（増加-減少）

	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
全体	16.0	6.1	9.2	▲7.3	2.3	4.6
卸売業	▲6.3	▲21.1	▲10.5	▲36.8	6.7	▲26.7
小売業	24.0	7.4	12.5	19.2	▲7.4	14.8
サービス業	21.1	15.4	17.9	0.0	14.6	7.7
建設業	21.1	12.5	12.5	▲22.2	▲25.0	5.0
製造業	12.1	6.5	6.1	▲11.4	10.3	6.9



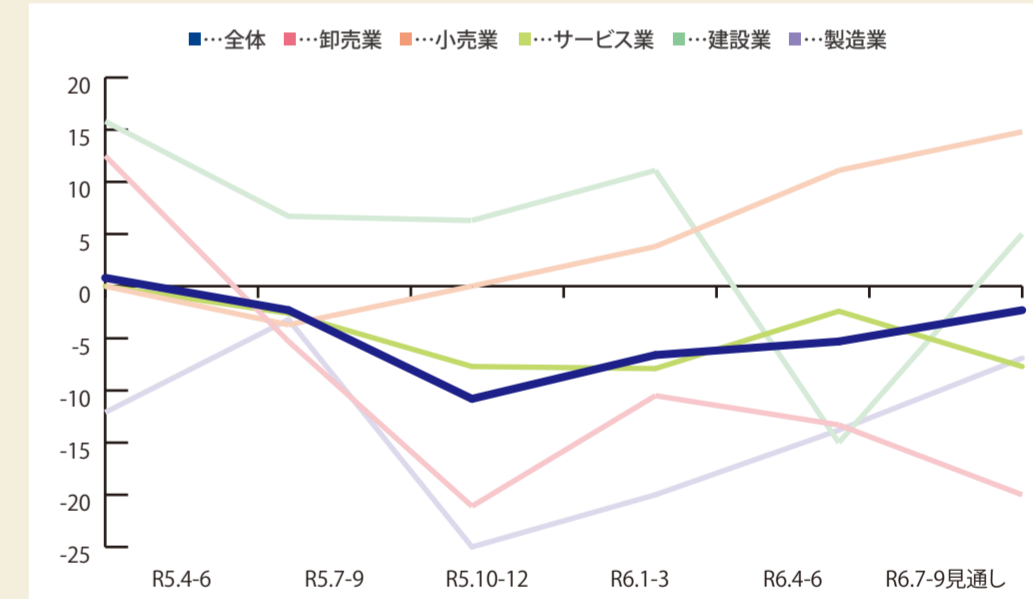
## 採算（好転-悪化）

	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
全体	▲5.3	▲10.0	▲10.7	▲13.9	▲11.4	▲8.5
卸売業	0.0	▲31.6	▲15.8	▲36.8	▲13.3	▲20.0
小売業	0.0	▲3.8	▲4.2	11.5	▲14.8	7.4
サービス業	0.0	2.6	▲2.6	▲7.7	0.0	▲15.4
建設業	0.0	▲20.0	▲12.5	▲27.8	▲40.0	0.0
製造業	▲21.2	▲12.9	▲21.2	▲20.0	▲3.4	▲13.8



## 資金繰り（好転-悪化）

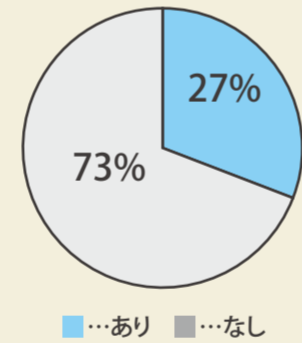
	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
全体	0.8	▲2.3	▲10.8	▲6.6	▲5.3	▲2.3
卸売業	12.5	▲5.3	▲21.1	▲10.5	▲13.3	▲20.0
小売業	0.0	▲3.7	0.0	3.8	11.1	14.8
サービス業	0.0	▲2.6	▲7.7	▲7.9	▲2.4	▲7.7
建設業	15.8	6.7	6.3	11.1	▲15.0	5.0
製造業	▲12.1	▲3.2	▲25.0	▲20.0	▲13.8	▲6.9



# 設備投資の有無

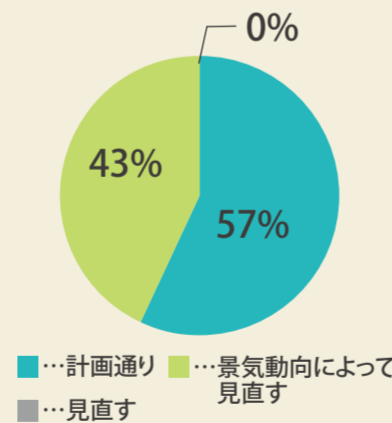
## ①設備投資の有無

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
あり	3	6	5	7	14	35
なし	12	21	35	13	15	96



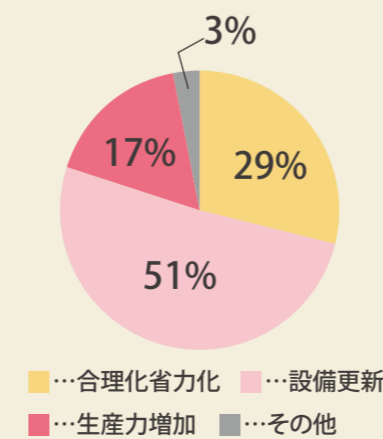
## ②①で「あり」と答えた場合、計画の実行について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
計画通り	2	4	3	4	8	21
景気動向によって見直す	1	2	4	3	6	16
見直す	0	0	0	0	0	0



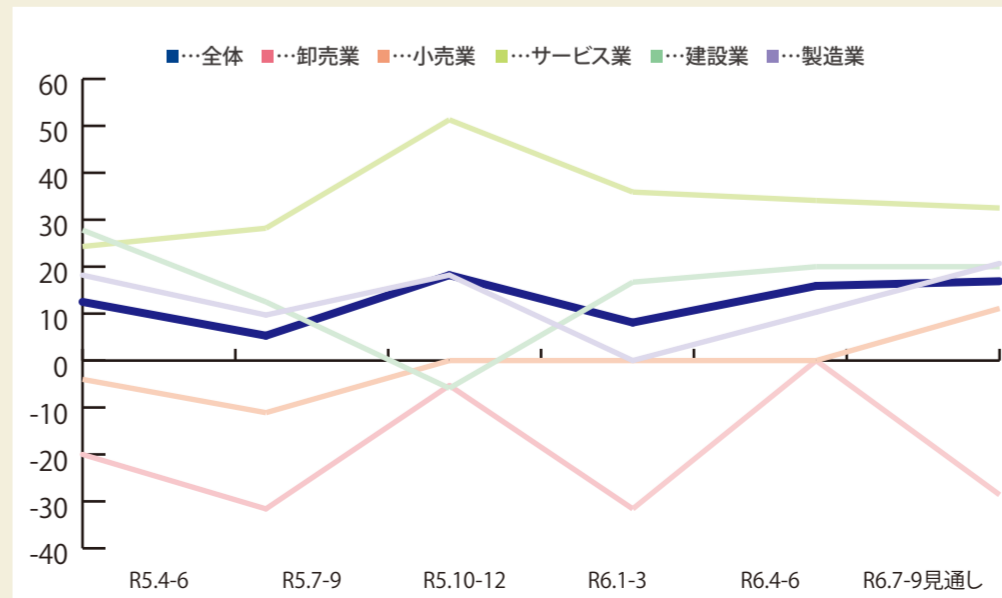
## ③①で「あり」と答えた場合、計画の内容について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
合理化省力化	0	2	0	1	7	10
設備更新	1	3	5	4	5	18
生産力増加	1	1	1	1	2	6
その他	1	0	0	0	0	1



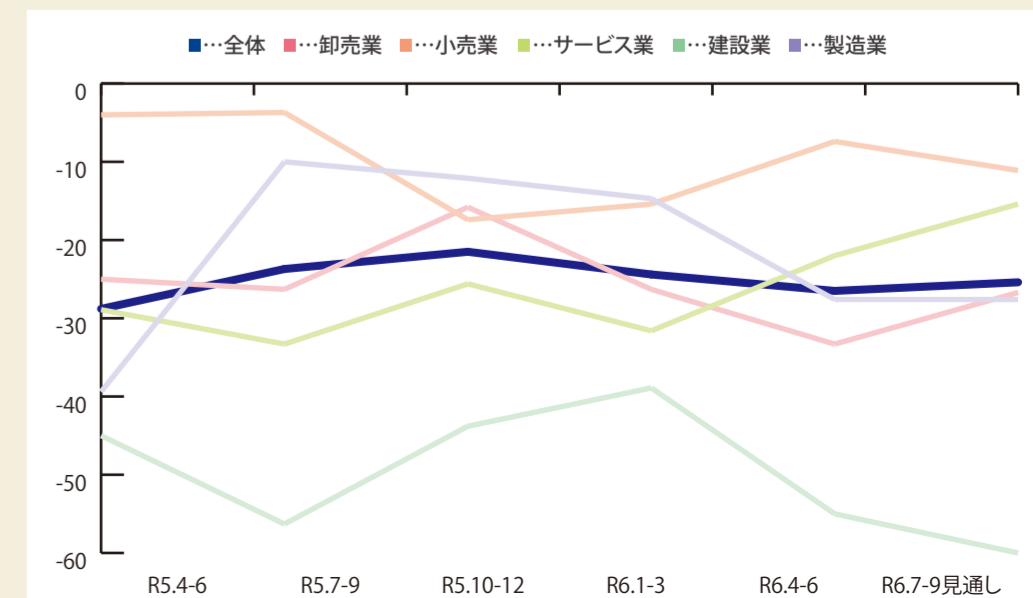
## 採算の水準（黒字-赤字）

	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
全体	12.5	5.3	18.2	8.1	15.9	16.9
卸売業	▲20.0	▲31.6	▲5.3	▲31.6	0.0	▲28.6
小売業	▲4.0	▲11.1	0.0	0.0	0.0	11.1
サービス業	24.3	28.2	51.3	35.9	34.1	32.5
建設業	27.8	12.5	▲5.9	16.7	20.0	20.0
製造業	18.2	9.7	18.2	0.0	10.3	20.7



## 従業員（過剰-不足）

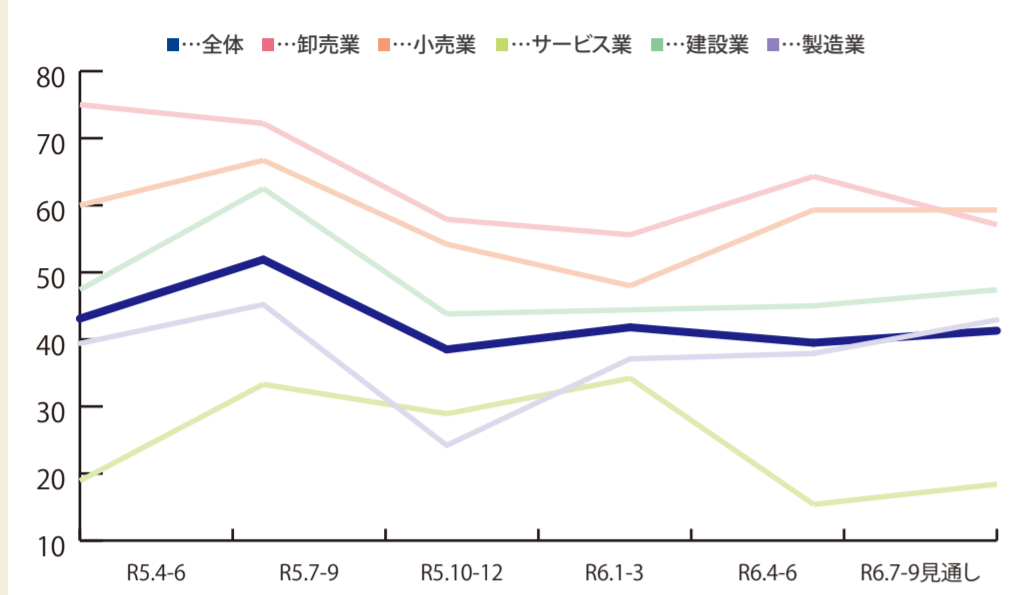
	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
全体	▲28.8	▲23.7	▲21.5	▲24.4	▲26.5	▲25.4
卸売業	▲25.0	▲26.3	▲15.8	▲26.3	▲33.3	▲26.7
小売業	▲4.0	▲3.7	▲17.4	▲15.4	▲7.4	▲11.1
サービス業	▲28.9	▲33.3	▲25.6	▲31.6	▲22.0	▲15.4
建設業	▲45.0	▲56.3	▲43.8	▲38.9	▲55.0	▲60.0
製造業	▲39.4	▲10.0	▲12.1	▲14.7	▲27.6	▲27.6



# 調査項目別 DI の推移②

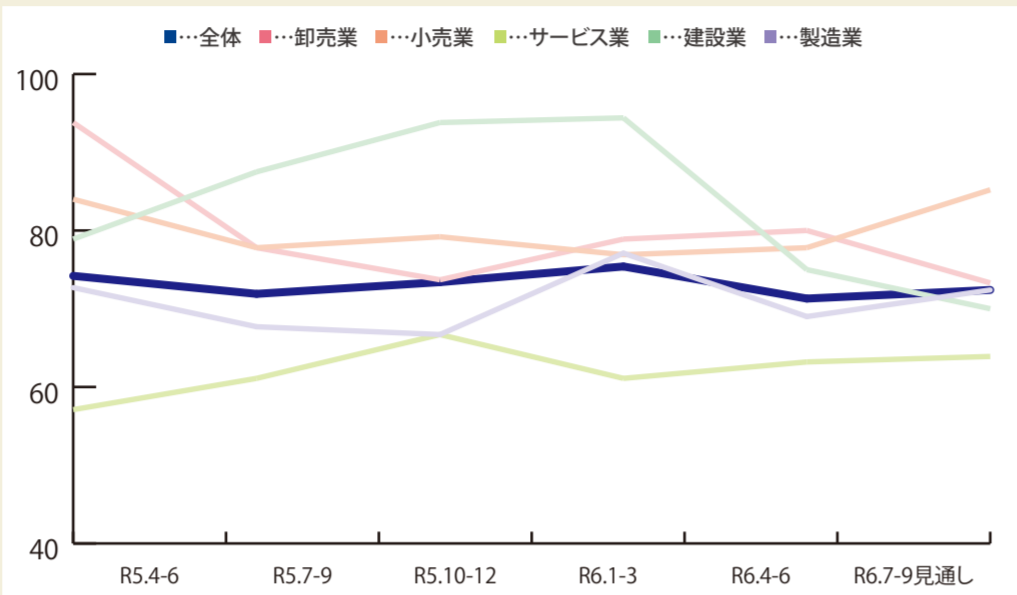
## 販売価格(上昇-下落)

	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
全体	43.1	51.9	38.5	41.8	39.5	41.3
卸売業	75.0	72.2	57.9	55.6	64.3	57.1
小売業	60.0	66.7	54.2	48.0	59.3	59.3
サービス業	18.9	33.3	28.9	34.2	15.4	18.4
建設業	47.4	62.5	43.8	44.4	45.0	47.4
製造業	39.4	45.2	24.2	37.1	37.9	42.9



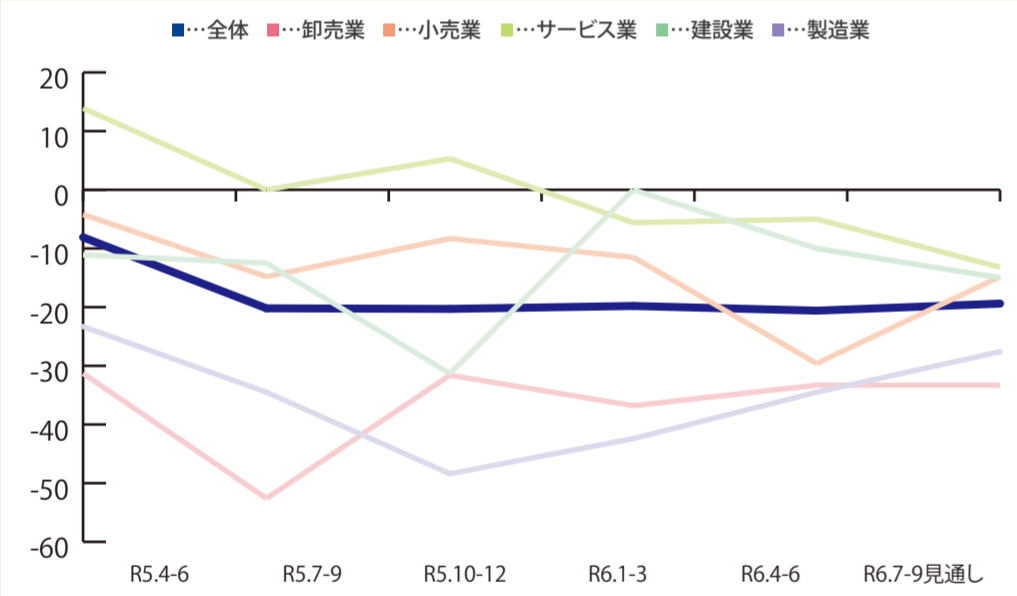
## 仕入価格(上昇-下落)

	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
全体	74.2	71.9	73.4	75.4	71.3	72.4
卸売業	93.8	77.8	73.7	78.9	80.0	73.3
小売業	84.0	77.8	79.2	76.9	77.8	85.2
サービス業	57.1	61.1	66.7	61.1	63.2	63.9
建設業	78.9	87.5	93.8	94.4	75.0	70.0
製造業	72.7	67.7	66.7	77.1	69.0	72.4



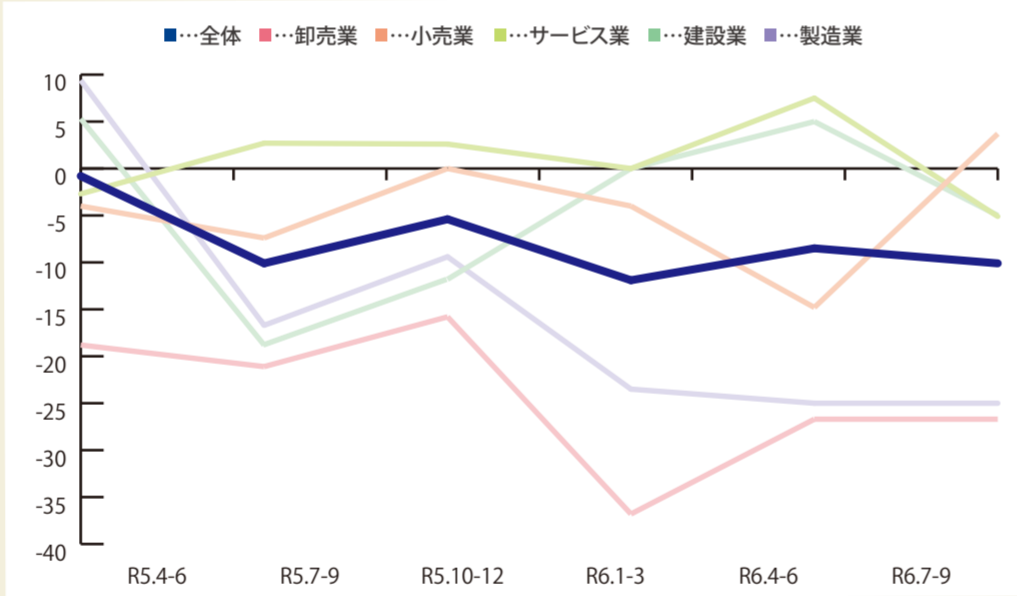
## 業界動向(好転-悪化)

	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
全体	▲8.1	▲20.2	▲20.3	▲19.8	▲20.6	▲19.4
卸売業	▲31.3	▲52.6	▲31.6	▲36.8	▲33.3	▲33.3
小売業	▲4.2	▲14.8	▲8.3	▲11.5	▲29.6	▲14.8
サービス業	13.9	0.0	5.3	▲5.6	▲5.0	▲13.2
建設業	▲11.1	▲12.5	▲31.3	0.0	▲10.0	▲15.0
製造業	▲23.3	▲34.5	▲48.4	▲42.4	▲34.5	▲27.6



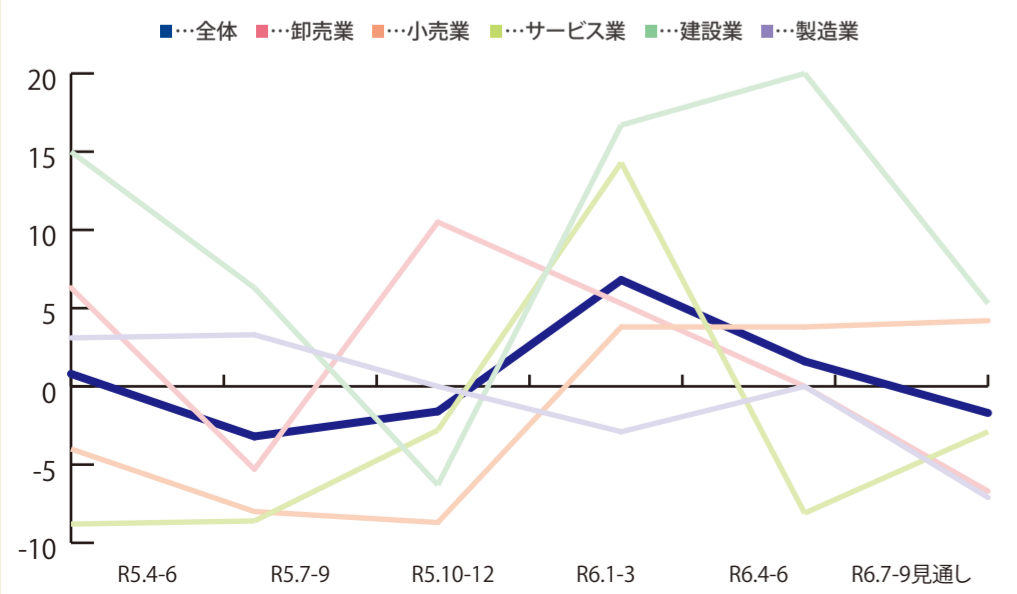
## 取引問合せ(活発-低調)

	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
全体	▲0.8	▲10.1	▲5.4	▲11.9	▲8.5	▲10.1
卸売業	▲18.8	▲21.1	▲15.8	▲36.8	▲26.7	▲26.7
小売業	▲4.0	▲7.4	0.0	▲4.0	▲14.8	3.7
サービス業	▲2.7	▲2.7	2.6	0.0	7.5	▲5.1
建設業	5.3	▲18.8	▲11.8	0.0	5.0	▲5.0
製造業	9.4	▲16.7	▲9.4	▲23.5	▲25.0	▲25.0



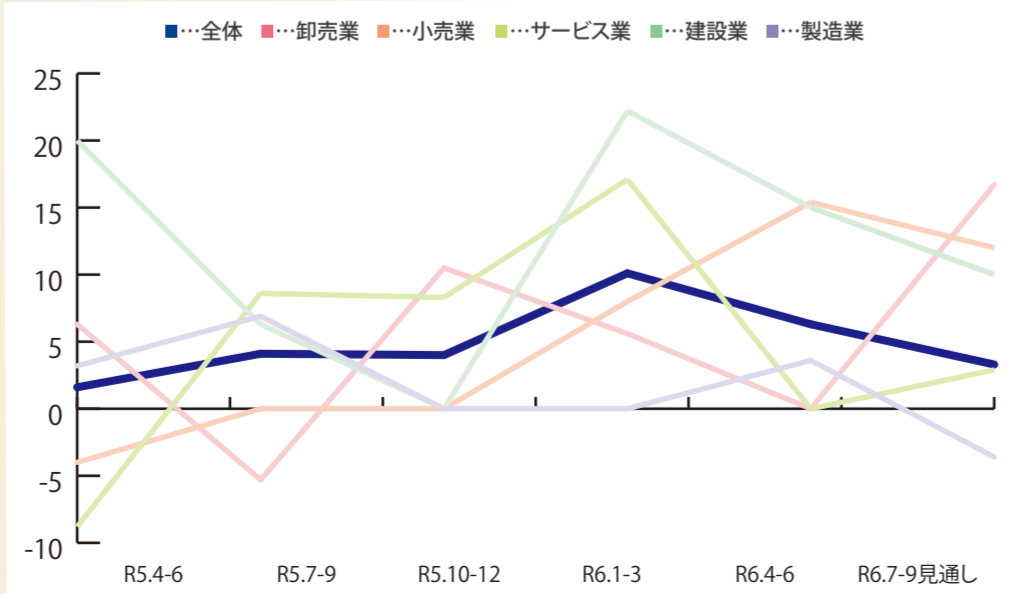
## 長期資金借入難度(容易-困難)

	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
全体	0.8	▲3.2	▲1.6	6.8	1.6	▲1.7
卸売業	6.3	▲5.3	10.5	5.3	0.0	▲6.7
小売業	▲4.0	▲8.0	▲8.7	3.8	3.8	4.2
サービス業	▲8.8	▲8.6	▲2.8	14.3	▲8.1	▲2.9
建設業	15.0	6.3	▲6.3	16.7	20.0	5.3
製造業	3.1	3.3	0.0	▲2.9	0.0	▲7.1



## 短期資金借入難度(容易-困難)

	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9 見通し
全体	1.6	4.1	4.0	10.1	6.3	3.3
卸売業	6.3	▲5.3	10.5	5.6	0.0	16.7
小売業	▲4.0	0.0	0.0	8.0	15.4	12.0
サービス業	▲8.8	8.6	8.3	17.1	0.0	2.9
建設業	20.0	6.3	0.0	22.2	15.0	10.0
製造業	3.2	6.9	0.0	0.0	3.6	▲3.6



# その他業種別自由意見

	好転👍	悪化👎
<b>卸売業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月に展示会をして大きく売上げが上昇した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に、消費が低調。</li> <li>仕入価格、物流コストが上がり続けている。</li> <li>建築の材料高騰。物件の減少。</li> </ul>
<b>小売業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ後の需要が落ち着いたことで、メーカーの欠品状況が若干改善された。</li> <li>お中元の法人ギフト需要は堅調。</li> <li>コロナ明け以降イベントなどが再開され問い合わせが増える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費動向が低調。</li> <li>労働力不足、原価高騰に未だ歯止めかからず。</li> <li>お中元の個人ギフト需要は停滞気味。</li> <li>仕入価格が高くなってきている。そう簡単に価格に転嫁できないといったところ。</li> <li>サラリーマンの方のペースアップが購入に反映されていないようです。</li> <li>物価高。コロナ明け以降お金の使い方、使い道の考え方の変化が売上げに影響している。</li> <li>物価高の影響で、お客様の買い替えがある様に思われます。</li> <li>インボイスに加え、円安やエネルギーコストの上昇、最低賃金上昇等により、コストばかり増え、いくら売上が増加したとしても利益を確保することが難しい状況が続いている。まずは国内需要を増やすことが重要であり、そのためにはも小手先の定額減税ではなく、抜本的な減税、消費税やインボイスの廃止、社会保険料の減額等を実行すべきである。</li> <li>仕入での部材価格が上がっている。</li> <li>八日市にSS併設のコストコがオープン予定。超安売りガソリンが県内マーケットに与える影響が懸念される。</li> <li>仕入価格及び燃料価格の上昇が採算を圧迫している。また、物価上昇に伴い顧客の来店数及び買上単価が下がっている。</li> </ul>
<b>サービス業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金でご依頼されるお客様が増えている。景気が回復されているクライアント様が増えている。</li> <li>ドローンの産業利用がようやく進み始めて、機体の注文や撮影の依頼が増加基調。今後この分野の伸びと共に事業を伸ばしていきたい。</li> <li>以前より値上げに理解を得やすい。</li> <li>似た他業者ができたことにより、利用者の方の選択肢が増え、弊社の独自性をもとめる問い合わせが中心となってきた。</li> <li>問い合わせは増加している。</li> <li>DXやAIなどに注目が集まり、堅調な状況です。</li> <li>コロナを意識した移動制限や心理的なものがうすれてきて、消費行動も活発になりつつあるように感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>EC事業は、仕入れ値と運送費の高騰により販売価格が高くなり、売上に良くない影響が出ている。</li> <li>物価の上昇が予想以上。</li> <li>似たような他業者が増え、問い合わせが減った。</li> <li>ライバル店の台頭で売上げ減少。</li> <li>業界全体的に悪化していると聞きます。生産性をあげコスト削減の見直しをさらに行っていきたい。</li> <li>コストの増加を売上に転嫁できない。</li> <li>なかなか自社サービスの値上げができないことが課題です。</li> </ul>
<b>建設業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の設備投資の話が増えてきている。</li> <li>学生の進学や、企業の転勤などが増加傾向にあることにより、売上増加につながる要素が増えた。</li> <li>物価上昇にともなう販価の値上げは徐々に進んでいる。</li> <li>イベント開催により問い合わせの急増。</li> <li>ハウスメーカー等の職人不足の問題化・顕在化は、外注・下請け任せの体質が根本原因。地元ビルダーは、若い人材の発掘と育成に努める事でビジネスチャンスとなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外調達で購入費上昇。</li> <li>新築住宅の受注が大幅減。</li> <li>従業員の雇用については、特に難易度が上がり、採用単価も上昇している。</li> <li>人手不足は深刻化している。</li> <li>仕入価格の高騰。</li> <li>働き方改革によるデメリットとして職人へのスキルアップ“育てる・鍛える”と言う観点(機会)が疎かになってしまふ。</li> </ul>
<b>製造業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>稼働率、売上共に良くなった。付加価値の高い商品への受注が増えた。</li> <li>取引先の3月在庫調整もあり、その反動で売上高および利益も前年比増加したが、今後については予断を許さない状況。今年より営業尽力しており、その結果徐々に引き合いが増加しており、受注につなげていきたい。</li> <li>客先の設備投資によって仕事が回ってくるが、だんだんと設備投資が増えて来ているように感じる。しかしまだまだ皆が仕事が薄い状況なので取り合いで価格競争をしてしまっている状況である。</li> <li>大手主力先よりの受注増加・船舶用環境部品の受注増。</li> <li>弊店の特色を活かした受注が増えた。</li> <li>長年取り組んできた新事業に販売の見通しが見えてきたこと。</li> <li>今年4月から新年度予算になり、前年は保留になっていた案件の予算が執行になり、その反動で一気に動いてきた感がある。現在の所は受注動向は旺盛であるが、原材料費・電気代・人件費などの高騰が止まらないので、予断を許さない経営環境が続くと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体、自動車関係の落ち込みが大きい。</li> <li>エネルギー高騰、円安による原料価格の大幅な値上がり。(値上げしてもすぐに相殺される)</li> <li>人件費を含めて経費は相変わらず増加基調で、価格転嫁はまだ交渉中でタイムラグもあり利益圧迫要因。自動車生産停止等の影響を受け、今後の見通しは不透明である。</li> <li>仕入れ値がどんどん上がっている。</li> <li>物価上昇が大きく、吸収できない。</li> <li>材料価格の高騰 昇給等による人件費の増加。</li> <li>作業工程のあり方。</li> <li>世界的な建機業界不振の影響。当面回復の見込みが立たない状況。</li> <li>機械設備の寿命。加工量が前期の6割〜7割コロナの時より悪い。</li> <li>和装についての諸経費の価格転嫁がより困難になってきたこと。</li> </ul>